

【四天王寺で、世界一の梵鐘が造られていた】

大阪の四天王寺では世界最大級の梵鐘が回収されていた。高さ 8 メートル近い大梵鐘が鑄造されるも、わずかその 30 年後には解体された。

高さ 2 丈 6 尺 (7.86 メートル)

差し渡 (口径) 1 丈 6 尺 (4.83 メートル)

厚さ 2 尺 2 寸 (66 センチ)

廻り 5 丈 4 尺 (16.35 メートル)

目方 (重さ) 4 万 2000 貫 (157.5 トン) → 予算の都合で 1 万 7000 貫 (64 トン) に変更

頌徳鐘鑄造費 (当初予算) 26 万円 (工場からの輸送費 2 万円込み、現在の価値では 9 億 4000 万円ほど)

鐘楼堂建設費 10 万円 (現在の価値では 3 億 6000 万円ほど)

【被災寺院】

太平洋戦争における本土空襲は各地の寺院を破壊し、文化財を消滅させた。戦後直後に文部省と日本宗教連盟が実施した被災寺院は 4609 か寺 (寺院総数の 5.9%)。

戦災寺社教会数

	総数	戦災数	戦災坪数
仏教寺院	7 万 8219	4609	63 万 6470
神社	11 万 479	1374	8 万 2440
キリスト教教会	1924	446	4 万 9189
教派神道	1 万 6521	2540	15 万 5892

出所『宗教便覧』 (1948)

註：東京都の戦災坪数は推定値

【仏像疎開】

1943 (昭和 18) 年 12 月 14 日に閣議決定されたのが、次の「国宝、重要美術品ノ防空施設整備要綱」だった。空襲によって破壊されてしまう危険性が高い「防空特別地域」として京都市と奈良市が挙げられ、疎開の方針と措置について記されている。

1944 (昭和 19) 年 1 月には、東大寺で「第一回国宝防空施設協議会」を開催。同時に県の技師らは帯解 (奈良市山町) にある尼寺、円照寺などを疎開先と決め、清掃作業などを実施した。

疎開先に指定された寺院はほかに、奈良市内から南東に 20km ほど離れた大蔵寺 (大宇陀町=当時) や、奈良市北西部の正暦寺 (しょうりゃくじ・五ヶ谷村=当時) があつた。文化財の疎開は盗難を避けるために内密に実施された。東大寺や興福寺では 1944 (昭和 19) 年 3 月下旬以降、荷造りがはじめられた。